

日本各地の医療施設を永続発展させる、革新的な事業モデルの構築を目指す。

北

北海道から宮崎まで、全国各地で病院や介護施設など（以下、病院など）を

経営する一般財団法人SAITO MEDICAL GROUP。北海道

の僻地にある病院を承継し、地域資源を活かした川湯の森病院として立て直すことに成功して以来、同グループを14法人37事業所からなる医療グループへと発展させたのが、精神科医でもある齋藤浩記代表理事だ。

「祖父母や親戚を早くに亡くしたことから、『人はなぜ死ぬのか、人を失わないためには何をすればいいのか』といったことを常に考えている子どもでした。また、人類が争いを繰り返してきた歴史を知るうちに、人の心の問題や社会の環境、自然災害など、多くの課題を解決しなければ、人が安らかに過ごせる未来はないということも強く感じていました。とはいえ進路を選ばずには、まず目の前の人

に向き合う医師になろうと考へ、医学の道に進んだのです。医師になってからは、勤務医を経て、埼玉に白らのクリニックを開設。後に知人の弁護士から、北海道の病院の再建を依頼され、事業承継を決定した。

「当時から、病気がない病院の経営が成り立たない日本の診療報酬制度に疑問を感じており、食やエネルギーを白給自足

できるような病院をつくりたいと考えていました。相談を受けた病院は天然資源と豊かな自然に恵まれており、私が思い描いていた仕組みを実現するのにぴったりだったのです。」

齋

藤氏がそう話す川湯の森病院では、温泉熱やヒートポンプを利用した暖房設備や太陽光発電で、エネルギーの白給自足を実現。温泉熱を利用したヒートハウスや自家農園で

は野菜や果物の生産も行い、現在はワインづくりやコーヒー栽培にもチャレンジしている。「一般的に、医療機関は備わっているように思われるかもしれませんが、実はそうした時代はとくに終わっています。医師の技術に偏りなく、いかに多くの患者に対応するかのみにフォーカスした現在の診療報酬制度では、医療機関が病気を予防に力を入れるメリットを見つけれなく、医師や医療従事者の評価もそれにくいのが現状です。いっぽうで医療費の増大は日本の国家課題になっており、財源にも限界がある中で、医療機関の経営者は人口減少を始めとする多様な視点から自院の将来を描き出す必要に迫られています。」

実際に地方の多くの病院が苦境に立たされる中、齋藤氏は地域の大切な資産でもある各地の病院などを、積極的にグループ

に加えてきた。「私が大切にしているのは、物事の真理や本質に光を当てる。『真実一路』という価値観。また、経営は国づくりと考え、世の中をよりよく治めて人々を苦しみから救う。『経世済民』の視点を重視し、医療、介護、福祉、保健は、その中でも重要な社会資源であるという考えを持っています。」

グループに加わってもらった病院などに関しては、地域のことを知る理事長を含む経営陣にできる限り運営を継続してもらい、そこに地域産業との連携といったスパイスを加えていく。たとえば、埼玉の深谷や高知の四万十にある病院では、地域の市場や就労支援施設と連携し、

「食同源」の観点から地元食材を使った手巻き寿司や弁当の販売を行うなど、地域と連携した事業もスタートさせている。

ま

た、グループ内の病院で

の人材交流や技術交流を盛んに行うことで、各病院での地域ニーズに応じた診療科目の新設や、個々の医師や看護師のスキルアップを促進。僻地にある病院などの人材不足にも対応するなど、医療グループとしてのシナジーを大いに活かした病院経営を行っている。「今後は少なくとも各厚生局管内にひとつずつの拠点を持ち、食やエネルギーの白給自足

CHALLENGER

SAITO KOKI

一般財団法人 SAITO MEDICAL GROUP 代表理事

齋藤浩記

1973年東京都生まれ。東京医科大学卒。2006年に大宮さいとうクリニック開設。理事長として首都圏の複数の法人の問題解決・経営改善に関わった実績を買われ、東北北海道にある僻地の法人を承継し、係争解決・経営改善を実現。2019年にグループを設立し、広範囲にわたる事業を展開。

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

一般財団法人 SAITO MEDICAL GROUP <https://smgr.jp/>

に加え、医療原価にあたる食材やリネン、薬品、医療材料、電子カルテ、医療機器など、病院などの運営に関わるあらゆることを内製化し、利益の上がる別部門とする事業などを展開したいと考えています。いずれは、これらの事業によって病院経営などを支えていく。こうしたモデルケースを実現し、日本のみならず医療費の社会負担に苦しむ世界の国々に広げていくことが私の大きな目標です。同時に、グループの病院などで働く人たちは世界一の好条件な職場を用意し、医療の質や安全、学術研究も最高レベルに高めたい。将来的には、そのための学術機関のグループ内での創出なども視野に入れています。自らが掲げる理想の事業モデルを、『できる限り早く実現したい』と齋藤氏は力を込める。「たとえば、東海や東南海、南海、首都圏といった大地震はいつ起こるか分からず、そうした有事の際に人命を守るためには、中央と分断されてもきちんと機能する地域の医療拠点が重要になります。そこで私たちのグループが地域の人の助けとなるためにも、自立・自走できる事業モデルに加え、地域や行政とも連携した磐石な医療機関を、しっかりと築き上げたいと考えているのです。」

齋藤氏が目指すのは、まさに幼き日から思い描いてきた、人々が安心して暮らせる社会の実現だ。異端の医師による壮大な挑戦は、未来へ向けて大きく前進しつつある。